

関西における花粉予報の精度

○ 南 利幸 (気象解説研究所・NPO 花粉情報協会) 宇佐神 篤、佐橋紀男、小笠原 寛、榎本雅夫、芦田恒雄、井出 武、中山壽考 (NPO 花粉情報協会)

【はじめに】スギ・ヒノキ科花粉が飛散するシーズンになると、テレビやラジオ・新聞などを通じて花粉予報が連日発表される。その予報は、花粉症患者にとっては日々の対策に必要な情報である。そこで関西において、主たる気象会社 (K および W) から発表されている花粉予報を、ダーラム法で観測された花粉数との比較を行い、その精度を検証することにした。

【予報の検証方法】シーズン中に発表される近畿2府4県と徳島県のエリア別 (12 地域) のランク予報 (少ない・やや多い・多い・非常に多い) を新聞やインターネットから検索し、その 12 地域におけるダーラム法による飛散量の実況値と比較をした。実況値は地域での観測地点が多ければ平均し、予報との的中率を検証した。

期間は 2004 年～07 年の 2 月～4 月に発表された日別予報について検証を行ったが、予報を入手できなかった日は対象からはずしている。

【結果と考察】K・W ともに総飛散数が少なかった 04 年と多かった 05 年の的中率は高くなっているが、06 年や 07 年の的中率は低くなっている。06 年はスギ花粉の総飛散数は少なかったもののヒノキ科花粉の飛散数は多く、07 年は逆にスギ花粉の飛散は多く、ヒノキ科花粉の飛散が少なかった。このため、スギからヒノキ科へ移行する時期の特定が難しかったことが、的中率の低下につながっているのであろう。また 06・07 年とも、スギ花粉の飛散が最盛期に当たる時期に寒気が入り、飛散が抑えられてしまったことも原因であると考えられる。

地域別では、和歌山県南部や徳島県南部などの的中率が低くなっている。他の地域と比べると飛散開始日や飛散終了日が早く、飛散開始・終了日等の予測の誤差が原因だと推測される。

【まとめ】花粉飛散量は、気象要素や地理的要因により大きく変化をする。気象別・地域別の花粉

飛散のパターンを詳細に解析し、花粉症患者のために、より精度の高い花粉情報が発表されることが望まれる。

表 1. K 気象会社 的中率 (%)

地域	2004	2005	2006	2007	平均
滋賀県北部	83	66	-	-	75
〃 南部	71	80	49	35	59
京都府北部	79	72	47	58	64
〃 南部	71	86	36	39	58
奈良県北部	80	86	39	52	64
兵庫県北部	81	73	59	45	65
〃 南部	77	80	41	52	62
大阪府	87	75	39	39	60
和歌山県北部	70	72	44	55	60
〃 南部	48	58	51	52	52
徳島県北部	68	73	35	47	56
〃 南部	68	67	42	33	52
年別平均	74	74	44	46	59

表 2. W 気象会社 的中率 (%)

地域	2004	2005	2006	2007	平均
滋賀県北部	57	64	-	-	60
〃 南部	60	75	32	39	51
京都府北部	43	71	47	45	52
〃 南部	48	77	27	55	52
奈良県北部	45	72	27	39	46
兵庫県北部	62	68	44	45	55
〃 南部	45	69	37	45	49
大阪府	49	64	27	32	43
和歌山県北部	39	63	20	42	41
〃 南部	39	50	20	26	34
徳島県北部	55	54	46	30	46
〃 南部	40	62	18	30	37
年別平均	48	66	32	39	46